

生産管理と納期管理

～標準時間・生産期間短縮・納期管理・IE改善～

■研修内容

生産現場における管理のポイントは、「品質」「原価」「納期」であると言われています。この研修では『納期』に着目し、生産期間(LT)短縮 及び 納期遵守 に役立つ次の内容を演習を交えて解説し、実践できる力をつけて頂くことが目的です。

- ・ IE技法の基本(改善の仕組み)
- ・ 生産期間短縮とIE技法の活用
- ・ 標準時間の概念とその設定
- ・ 日程計画の立て方(PART法など)

経験と勘によって改善活動を進めていませんか。改善の『仕組み』・有効な『技法』を理解していただき、『効率よく進める方法』を身に付けてください。

特に生産管理担当者、製造現場の管理監督者の方に強くお勧め致します。



概 要

■日程:2016年1月25日(月)

■時間:10時～17時

■会場:鳥取県産業人材育成センター(視聴覚室)
倉吉市福庭町二丁目1

■定員:15名(先着順)

※定員を超える場合、同一企業人数は調整させていただく場合があります。

■受講料 1,000円(一人当たり、テキスト代含む)

《お申込み後の流れ》

- ①受講者:受講申込書に必要な事項を記入し、下記連絡先にファクシミリで申込んでください。
- ②事務局:受講通知を受講者様宛に、申込書に記載のメールアドレスへ送信します。
- ③受講料:セミナー当日持参してください。

《キャンセルについて》

- ・受講料受領後に、受講者様のご都合により、受講途中でご出席出来なくなった場合は、お支払いいただいた受講料の返金は致しかねますので予めご了承下さい。

■講習時に用意いただくもの

筆記用具

■主催:鳥取県戦略産業雇用創造プロジェクト推進協議会

《連絡先》鳥取県戦略産業雇用創造プロジェクト推進協議会中部支部
鳥取県立産業人材育成センター(倉吉校)内

電話:0858-27-5333 ファクシミリ:0858-27-5334

電子メール: sangyoujinzai-center@pref.tottori.jp

プログラム

1. IE技法の基本(改善の仕組み)

- ①改善の基本的考え方
- ②IE改善の仕組みと評価指標
- ③関連する手法との関連の概説(VE:価値工学 5Sなど)
- ④効率的な改善の進め方

2. 生産期間短縮とIE技法の活用

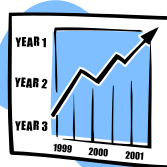
- ①工程分析による問題点発見と改善
- ②人・機械分析による生産期間の短縮
- ③稼働分析による適正人員の設定と生産期間短縮

3. 標準時間の概念とその設定

- ①標準時間の概念
- ②時間測定とばらつきの管理
- ③工数計画と投入順序計画(生産順序変更による生産期間の短縮)

4. 日程計画の立て方(PART/CPM法)

- ①日程計画の立て方・進捗統制のやり方
- ②PART/CPM法の紹介



講師プロフィール

【吉本 一穂(よしもと かずほ)】

早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科/研究科 経営デザイン専攻 教授 (工学博士)

早稲田大学 附置研究所 グローバル生産・流通コラボレート研究所 所長

【略歴】

1951年 東京都生まれ。1982年 早稲田大学講師～現在 教授。担当講義:「施設計画」「ロジスティクス設計」

「メソッドエンジニアリング(作業改善)」「生産工学」等

■講 師: (学)首都大学東京 (法)中小企業大学校 (法)日本IE協会 (法)九州生産性本部講師

Albion College (USA, MI) 交換教授(1990～91)等

■社内研修講師: ヤマハ発動機(株) (株)ツムラ (株)東芝 (株)カバヤ 広島倉庫協会 (有)川俣製作所 (有)友基 等多数

■生産改善アドバイス: (株)NTN (株)東芝 (株)ツムラ ブリヂストン・タイ Panasonic・タイ NTN-USA (株)西芝電機
(株)ボッシュ・レックスロス (株)大成建設 ユニクロ等多数

■ロジスティクス/施設レイアウトに関わる設計技法の開発・実践とともに、IE・VEを用いた改善活動の指導を国内外で行っている。理論と実践の融合を重んじ後戻りしない改善活動の教育/普及/実践を企業の規模を問わず行っている。理論に裏打ちされた豊富な経験を基にしたわかりやすい講義/指導には定評がある。

